



校長室だより2

黒部市立村椿小学校

文責：校長 寺島紀子

令和7年12月4日

第27号

保小のさまざまな交流を

先月28日（金）に村椿保育所の保育参観が行われました。今年度は校長と学級担任3名の計4名が保護者の皆さんといっしょに参観させていただきました。

くま組さんとらいおん組さん、それぞれの劇と、2組合同での演奏、どれも皆一生懸命に取り組んでいる様子がとても素敵でした。年中児から年長児への成長の様子も感じられました。らいおん組ともなると、かなり長いセリフやむずかしそうな楽器も、楽しみながらしっかり発表することができたんですね。大変感動しました。

保育所の先生方の日頃の保育の環境づくりの工夫、子供たちの遊びの中からこうした発表を創り上げていく専門的な力量を感じ、大変勉強になりました。これからも、幼児期の保育・幼児教育と、小学校教育との円滑な接続ができるように、保小の交流をさまざまな方法で続けていきたいと考えています。

小さな出来事や発見、心の揺れを立ち止まって見つめ直しましょう

★自分の短歌の種がある！「第2回短歌大会」に見えた子供たちの成長

11月後半は今年度第2回目の「校長杯短歌大会」を行いました。結果発表と表彰も終わり、作品集を全校に配布し終わったところです。

今回感心したのは、どの子も自分が短歌に表したい「短歌の種」を自分で見付けることができたことです。教室や授業中のちょっとした出来事、家族との触れ合い、大好きな遊び、季節や時事ネタ（クマに関する歌が何首かありました。今年ならではだと思いました）等々…。「こういうことを短歌にしたいんだけど…」と校長室に相談しに来る子はいましたが、以前のように「短歌にすることがない！」「何も思いつかない！」と言い張る子はいませんでした。

親子で一緒に考えて作歌に取り組んだ子もいたようです。短歌を通して家族の会話が生まれていたのなら幸いです。いずれにせよ、どの子も締め切りを意識して作品を仕上げ、無事に投歌できました。

短歌づくりは、日頃の生活の中でほんの一瞬心が揺れ動いたときのことを、ふと立ち止まって見つめ直し、味わい直す作業です。なぜ自分の心が動いたのか、なぜそのことが気になるのか、その「短歌の種」を大切に育て、自分だけの一首に仕上げていきます。とてもぜいたくな心の営みと言えます。それぞれの短歌には、その時に一人一人がどのようなことに関心をもっていたのか、各々の心の世界が表れ、記録されています。是非作品集に目を通していただければと思います。校長室にまだ少し予備もありますよ。

★日記を通してその日の出来事を振り返るのもいいですね

3年教室では10月から、帰りの会のスピーチタイムにその日の担当の子が日記帳を読んで発表しています。これがなかなかよい時間です。小西先生に聞くと、毎週末にその1週間のことを振り返っての短作文（日記）を書くのを課題としているとのこと。それをスピーチタイムにも活用しているそうです。「メモ等がないとスピーチが大変そうだったので…」「僕も子供たちの日記を読むのを楽しみにしています」という小西先生の言葉どおり、子供たちの日記帳を見ると、先生からのお返しコメントが赤ペンでしっかりとたっぷりと書いてあります。先生とのコミュニケーションのツールになっているからか、子供たちもこの週1回の課題をとても楽しみにしている、スピーチの番に当たった子は自信をもって発表しています（逆に都合でスピーチがなくなった日は心から残念そうですね…）。

日記を書くことは平安時代頃から続く日本人のよい習慣です。自分の身の周りの出来事を振り返り記録に留め、あとで読み返すこともできます。これも短歌づくりに通じる大切な心の営みであると言えます。

★この「校長室だより」のカラー版は本校のホームページをご覧ください。★ご意見、ご感想などをお知らせください。お待ちしています！

校長室だよりへの感想・学校へのご意見もお願いします

切り取り

できればお名前or児童名()



いつも楽しい“Happy English”、そして…

水曜のランチルームのお楽しみの一つに“Happy English”があります。3日（水）は4年生が、自分が考えたPizzaを英語で紹介していました。絵を見せて話してくれるので遠くからでも分かりやすく、聞いている方からは拍手や笑い声等、タイミングのよいリアクションが返っていました。

ALTのジェシカ先生は9月からの着任以来、昼休みにポケモン探しゲームを行うなど、子供たちが自然と英語に親しめるような企画を考えて提案してくださいます。希望者のみ参加の「この指とまれ」方式ですが、いつも楽しみにしている「常連さん」もいて、学校生活にちょっとした楽しい学びのチャンスが生まれています。「学校は、だれもが、何かを、必ず楽しめる場所」に近付いているように思います。

シリーズ「教室におじゃまします」12月2日(火)2年道徳科の巻

この日は「うつくしいもの うつくしいこころ」の学習でした。美しいものや気高いものに感動する心をもち、人間の力を超えたものに対する畏敬の念を深めることは、人としてよりよく生きるために大切な道徳性の一つです。

教科書にも載っている12種類の写真を廣瀬先生は印刷し直して準備し、黒板に掲示しました。

紅葉、富士山、チューリップ公園（砺波市）、夕日が沈む海、万華鏡、姫路城と桜、イルミネーション等々、どれも

甲乙つけがたい美しさがあります。

「この中から特に美しいと思うものを一つ選んで、その理由も書きます」と先生が問題を出すと、一人一生懸命考え、ノートにまとめました。

その後はペアで、そして全体で各自の意見を出し合いました。ハンドサインを出したり、「○○さんに付けたします」と切り出したりと、一人の意見から上手

につながりで学習ができるようになっていて、2年生の成長を感じました。

続いて「こうした美しいものを見たとき、どう思いますか」と先生が問い合わせました。子供たちはそれぞれノートに書き始めました。

「ずっと見ていてもあきない」「本物を見てみたい」「わくわくする」「あんしんする」「しあわせな気持ち」「あたたかい気持ち」「おちつく気持ち」と、子供たちなりにさまざまな言葉で表現していました。

廣瀬先生は子供たちの言葉を大切に受け止め、時折問い合わせ返すなどして、皆で思いを共有できるように工夫していました。教室全体が清々しい気持ちになる授業でした。

＜おまけのひとりごと＞哲学の用語に「真・善・美（しんぜんび）」というものがあります。真理を追求する知性、正しい道徳心、美しいものに感動する感性、この3つの調和がとれた姿は人としての理想の姿ではないでしょうか。なかなか現実にはそこにはたどり着きませんが、かといって「偽・悪・醜」でいいとは思いません。美しいものをみればやはり心が落ち着き感動する、そうした人間としての当たり前の感性を大切にしたい。子供たちには「真・善・美」の感動体験をたくさんさせたいものだと思います。

★この「校長室だより」のカラー版は本校のホームページをご覧ください。★ご意見、ご感想などをお知らせください。お待ちしています！

校長室だよりへの感想・学校へのご意見もお願いします

切り取り

できればお名前or児童名()